
天体観測

リリィ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

天体観測

【Nコード】

N4247A

【作者名】

リリイ

【あらすじ】

基樹と光子は恋人どうし…基樹は光子の頼みで一緒に天体観測をするようになるのだが…

俺の名前は、佐藤基樹。

今は深夜1時40分

俺は何故、こんな時間に起きているかと言うと

「私…天体観測してみたい！」

と、昨日俺の彼女…天川光子が言ったから、俺はしょうがなくこんな時間に起きて天体観測の準備をしている。

光子との待ち合わせは2時。

待ち合わせ場所は、俺の家と光子の家との丁度間くらいにある踏み切りで、歩いて10分程度で着く所にある。

そこで合流して、近くの丘に行くことになっている。

俺の家には、兄が一時期天体観測にハマっていたので、天体望遠鏡がある。

今、俺はその天体望遠鏡を押し入れから引っ張り出して、いろいろと準備をしているわけだ。

よし。準備完了！

今から出れば、丁度2時くらいに着くだろう。

俺は天体望遠鏡を担いで家を出た。

俺が踏み切りに着くと、既に光子が待っていた。

「基くん？」

光子が俺に話しかけてきた。暗くて顔が見えてないのだろうか、疑

問形だ。

「悪い。…待ったか？」

俺は光子に聞いた。

「基くんだね。ううん。今来たところだよ。」

光子はそれなりに厚着をしてきてるみたいだけど、なんだか寒そう
だ。

「寒いかな？」

俺は光子に聞いてみた。

「大丈夫。基くんは寒くないの？」

「いや、俺は別に」

「それなら私も大丈夫だよ。」

「それじゃ、行こうか」

俺達は、近くの丘へ向かった。

踏み切りから丘までは、20分くらいかかる。

俺達は月明かりの下、二人で歩いていた。

「なあ光子…」

俺は光子に何でいきなり天体観測がしたくなったのか聞くことにし
た。

「なあに？基くん。」

「何で、いきなり天体観測なんかしたくなったんだ？」

「うん…窓から星を見てたら、天体観測がしたくなった…てな感じかな」

「そうか。今日は雲無くてよかったな。」

「うん。」

俺達はそんな会話をしながら住宅街を抜けて、少し歩いた所にある湖の見える丘に向かった。

「綺麗…月の光りが、湖に反射して輝いてる…」

丘に着いて、俺が天体望遠鏡の準備をしていると、光子が言った。湖に目をやると、風で起きた小さな波で湖の水面が月明かりでキラキラと輝いている。

「どうしてこんなに綺麗なんだろうね？星も綺麗だよ。なんか自然ってすごいなあ…」

「そうだな。自然の神秘だな。湖が生きているように見えるよ…」

「そうだよ。あ、準備できた？」

「ん？ああ、出来たよ。見る？」

「うん！」

光子は急いで天体望遠鏡のところまでくると、すぐに望遠鏡を使って星を見た。

「わあ…綺麗…」

そしてしばらく光子は夢中になって星を見続けていた。

「ねえ基くん！基くんも見ようよ！すごく綺麗だよ！」
「ああ……」

俺は望遠鏡に目を合わせた。

「すげえ……」

「でしょ？でしょ？」

「これすげえわ……」

目の前に広がる大宇宙……その中の星、ひとつひとつがまるで生きてるみたいに光輝いている……

「星って生きてんじゃね？すっげえ光ってる……」

俺達はそのまま星を見続けていた……

一時間後……

「ねえ……基くん……？」

光子が真剣な目をして俺を見ている……

「……なに？」

「……私ね……引越すことになったんだ……」

「……！！！」

いきなり何を言いだすんだこいつは……ドッキリか……？

「う、嘘だろ？」

「……………」

「おい！嘘だろ？なあ！嘘なんだろ？！」

「……本当だよ…来週の土曜日に…」

「いつから決まってたんだ…」

「先週の月曜日くらいから…」

「何でそんな大切な事言わなかったんだよ！」

「怖かったの…言ったら基くんが私から離れちゃうんじゃないかって…」

「何言つてんだよ！意味分かんねえよ！」

「…………ごめん…」

意味分かんねえ…光子が引越す？考えられねえ！ああー！！くそっ……むかつく！………いたいなんなんだよ…

「俺…帰るわ…」

「待つて…」

「…何」

「許してとは言わない…だから！来週…来週の金曜日に…まだ、私を彼女だと思ってくれるなら…また一緒に天体観測しよ…」

「……………」

「待つてるから…私、待つてるからね！」

「勝手にしろよ…」

俺は天体望遠鏡を担いで走って帰った…

- 引越し前夜 -

『待つてるから…』

ああー…くそっ…！

何で俺はあいつの事が忘れられねえんだ…もう一週間たつたんだぞ！
あいつは引越して新しい彼氏つくった方が幸せなんだ！俺は…俺
は…あいつの事が…光子の事が…

『私、待つてるからね！』

ああー！！今何時だ？！

1時45分…

………

俺は気づいたら天体望遠鏡を担いで走っていた。

もう一度、君に会うために…前と同じ午前2時あの踏み切りまで走
った。

「はあ…はあ…はあ…」

……いない…何故…？

もしかしたらもう、丘に行ったのか？

今は1時50分…

早かったのか…？

いや、最初から丘にいるのかもしれない！待っていてくれ！
今行くよ！また一緒に天体観測を…

「はあ…はあ…はあ…はあ…光子？」

いない…光子がない…何で…

引っ越しはまだのはずだ…何で…

「…何だ…？」

桜の木のところに何か…

「手紙…？」

俺は手紙を読んでみた…

『ごめんなさい…

私から呼んどいて私がいらないなんて最低だよ…
本当にごめんなさい…

もし、この手紙を読んでもくれているなら、基くん…来てくれたんだ
よね…

ごめんなさい…

私、予定より早く引っ越す事になっちゃって
もう行かなきゃいけなくなっちゃって…

それで、この手紙を書いたんだけど…
何書けばいいか分からなくて…

だから…私の気持ちを書くね。

ありがとう

こんな私を好きになってくれて…

ありがとう

私と付き合ってくれて…

ありがとう

私のワガママに付き合ってくれて…

ありがとう…

大切な思い出を…

ありがとう…

ありがとう…

もし、また会うことが出来たら…

またここで一緒に天体観測しようね…

ごめんね…時間がないからこんな手紙で…

私…基くんのこと、大好きだよ。

光子より。 ㊦

何だよ…自分だけ本音暴露かよ…俺にも言わせろよ……ごめんよ…俺…無器用だからあんなことしか言えなかった…あのときちゃんと言っていればよかった…俺も好きだよ…大好きだよ！

待ってるよ！

次は俺が待つてる！

また天体観測したいな！

この湖の見える丘で…

「…天体観測するか」

今は1時58分…

あと2分で2時…

2分後に君は来ない…

…でも、君もきつと見てるよな！

同じ空の下で

同じ星を…

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4247a/>

天体観測

2010年10月21日21時19分発行